

目次

○第 3 回歯科口腔保健の推進に関する専門委員会ワーキンググループ

プ委員発言整理メモ 1

○障害見舞金の給付状況【学校種別・障害種別の給付件数】（平成 22

年度）（独立行政法人日本スポーツ振興センター 学校安全Web よ

り一部抜粋） 4

発言整理メモ

(平成 24 年 1 月 30 日開催 歯科口腔保健の推進に関する専門委員会第 3 回ワーキンググループ)

前文について

- ・保健医療関係者とか学校保健者等の企業等の多様な関係者団体との密接な協力によりという趣旨の文言を入れてはどうか。

第 1 について

○第 1 の 1

- ・「口腔の健康の保持」に延伸や増進を加えてはどうか。
- ・セルフケアとプロフェッショナルケアについては、歯科だけに限らない多様な職種の人と一緒にやってやるというふうに含めるべき。
- ・法律の文言「健康等、質の高い生活の基礎的かつ重要な」を活かして記載すべき。
- ・セルフケア、プロフェッショナルケアにパブリックケアを入れるべき。

○第 1 の 2

- ・「歯科に関連する疾患」はわかりにくい。
- ・「歯科口腔疾患」でいいのではないか。
- ・ハイリスクストラテジーとポピュレーションストラテジーの両面に取り組んでいくべき。

○第 1 の 3

- ・高齢者で口腔機能訓練を歯科保健指導の中に入れていただきたい。
- ・生活習慣としてライフスタイルの確立のところに歯科からどうアプローチするかという視点で記載すべき。
- ・「口腔機能低下の軽減」に「維持・向上」という文言を入れてもらいたい。

○第 1 の 5

- ・情報提供だけでなく、歯科口腔保健情報の収集・分析・評価はきちんと入れるべき。
- ・人材育成とか連携体制の整備は「調査・研究」と並んで、別項目できちんと起こすべき内容である。
- ・健康増進法の基本方針の第五の項目、第七の項目に類似したものを歯科口腔保健法の基本的事項にも入れ込む形で調整すべき。

第2について

○全体

- ・ 歯科保健指導の内容を明確化すると、それぞれのライフステージ別に特徴が出てくるのではないかな。
- ・ 情報の収集分析は重要であるが、ライフステージすべてに関わってくるので、第一の部分に記載すべき。
- ・ 目標と計画の優先順位を検討すべきではないかな。

○乳幼児期、学齢期

- ・ 乳幼児期と学齢期に検診結果の集計・分析・評価を意識的に記載したほうがいい。
- ・ 学齢期に「フッ化物洗口」を入れてはいかがかな。
- ・ フッ化物の応用という表現の方がいいのではないかな。
- ・ 制限という文言は使用すべきではないのではないかな。
- ・ 乳幼児期の健全な歯の成長に顎骨を入れたらいかがかな。
- ・ う蝕のある者の減少ではなくて、う蝕のない者の増加のほうがよりいいのではないかな。
- ・ パブリックケアに関すること、例えば、学校保健委員会の活用や学校歯科医、学校医の連携などを入れてはどうか。

○成人期、高齢期

- ・ 成人期からブラッシングが出てくるのは奇異な感じがするので工夫が必要である。
- ・ 成人期（妊産婦を含む）に、歯周疾患検診等の歯科検診の推進を是非入れていただきたい。

○障害者、要介護高齢者

- ・ 障害者・要介護高齢者に医療をカバーする内容も盛り込むべき。

○社会環境の整備

- ・ 社会環境の整備は、地方自治体とか国が行うべき施策、事業などで整理してはどうか。
- ・ 条例の制定、基本事項の策定に、その計画の進行管理や評価を行っていく体制を記載してはどうか。
- ・ 医科・歯科連携体制の確保に要介護者も入れてはいかがかな。
- ・ 病院歯科、口腔外科をいかに活用するかを記載すべき。

第三について

- ・ 歯科保健は市町村に移ってきているので、基本的事項の策定は都道府県だけでなく市町村も入っている方がよい。

- ・市町村の情報収集、その提供体制についても検討すべき。
- ・地域格差の縮小のため、各地域でどうことが行われているのかという情報の共有化、公開を、社会整備のところに入れておく必要がある。

第四について

- ・歯科疾患実態調査の規模と内容を検討すべき。
- ・歯科疾患実態調査の6年に1度という周期では5年に1度の評価期間と全く整合性が取れなくなってしまう。
- ・将来を見据えヘルスとインシュランスのベストミックスについて記載すべき。

第五について

- ・8020運動は「歯科口腔保健を推進するための目標」に入れるべき。
- ・8020運動はなぜ20本なのかを記載していただきたい。
- ・8020運動はスローガンであり、前文に記載してもいいのではないか。

障害見舞金の給付状況【学校種別・障害種別の給付件数】(平成22年度)

学校種別	小学校	中学校	高等学校	高等専門 学校	計
障害種別	件	件	件	件	件
歯牙障害	22	19	63	1	105

(注) 障害の件数は、傷病が治ゆ・症状固定したときに在籍していた学校種別による。

(独立行政法人日本スポーツ振興センター 学校安全Webより一部抜粋)